

PHAYAOLレポート 2009-02 二速報二

ジッポンスタッフが 祖国「ラオス」 に涙した！

先日、9月7日ベトナム経由でラオスに！

ジッポンさんと、二人でお父さんお母さんの故郷（タイに逃れた人たちの故郷）ジッポンさんが生まれた地、でもある「ラオス」に調査に入りました。（9月18日タイに帰国）

いまでも、ラオスのモンの人たちが、貧困に加え反政府活動者として国を追われ国境を越えタイへの逃亡がたえません。

タイに無事逃れても、逮捕されれば、ペッチャブン県にある難民収容センターに拘留されタイ政府によりラオスへと強制送還され「故国に戻ればラオスの軍事政権により大量餓死させられるという恐ろしい状況に直面する。」という記事もあります。

「収容されているモンの人たちは、アメリカへ亡命する希望を抱いて、あてのないその期を待っているようです。」

タイに逃れたモンの人が合法的にラオスに入国ができて「帰れる保証は、無い。」とも言われています。

そんな中、ジッポンさんの決断で入国を決行しました。

村に入るなり、タイに逃れた自分達と、あまりにも格差が付き悲惨な情景と暮らしに驚きとショックでぼう然としました。

ジッポンさんは、無言で寂しげに、村をながめていました。私も、涙があふれ、遠くが見えなくなりました。

学校は近くには無く、（ラオスはまだ立ち後れ教育まで手が回る状況ではありません、たとえ行政が立ち上がってもモン族は、置いてきぼりで望みはありません。いまだに迫害の実態も存在しています。）

ほとんどの子どもは、家の手伝いです。電気も水道も便所もない、10才くらい子ども達は、毎日遠くに飲料や家畜用に「汚いわき水」を汲みに行くのが日課で、滑る山道を何回も往復しています。

幼児は、みんなお腹がふくれ、蛔虫にむしばまれているのか、栄養失調で成長阻害が目立ちます。

おできができ、化膿して治らない児もおおせいです。そんななかでも笑顔がたえません。（また、涙・・・）

この悲惨な情景を目の当たりし、一刻も早く「食料改善を第一に」支援の手をさしのべる必要があると感じました。

そしてジッポンさんは、村に帰るなり親戚や村の人たちに現状を伝え、故郷のみんなを助けようと呼びかけています。

自分たちは、タイに逃れようやく食べるに事欠かなくなって、中には、余裕のある人もいる。

今度は、自分たちが故郷の同土を救う責任があると思っています。私も、早くお手伝いができればと、思っています。

（農村開発事業として助成事業を模索しています。）



村の様子



子守のお兄ちゃん



夕食のごちそう



水汲みの兄弟



「笑顔」の子ども達



近所で2度目の夕食



行水・洗濯・炊事夕方の川辺



改造運搬車

—教育支援募金にご協力をお願いします。—

091010 saeki

ベトナム北部～ラオス北部 調査レポート 2009.9.13～9/21



ベトナム戦争の傷跡はいまも・・・枯れ葉剤の後遺症は続き見通しは暗い・・・アメリカが勝利したのか？・・・



貧困な生活を強いられている 豚ガスの装置（後始末ができていない） 公衆男子トイレ（外のほうがましかも） 糞尿の溝



9月14日 ラオカイ～サパ 観光トレッキング お客待モン族 モンの村へトレッキング訪問



お昼ごはん準備中 一緒に御馳走になった ジッポンさんの聞き取り調査 夜遅く（22時）までお店の仕事



ベトナム山間部国境へ ラオスに無事入りました 橋が少なくほとんど船で渡る ジッポンさんたちの故郷モンの村



親戚の人たち 町のバスセンターの公衆便所 タイ式（外は垂れ流している） ラオスイミグレー国境（メコン川）

—教育支援募金にご協力をお願いします。—

091010 saeki